

2022 J R 総連春闘 加盟 8 単組交渉集約にあたっての見解

2022 J R 総連春闘は、4 月 15 日に加盟 8 単組すべてが交渉を集約することとなりました。この間、J R 総連の旗の下に結集して、最後まで統一要求・統一闘争をたたかい抜いていただいた各単組のみなさんに心から感謝を申し上げます。

2022 J R 総連春闘は、長引くコロナ禍の影響を受け交通・運輸産業や観光・サービス産業が、依然として厳しい経営環境に置かれるなかでのたたかいとなりました。

こうした厳しい状況にもかかわらず、J R 北海道労組は 21 年ぶりにベア一律 500 円を獲得し、J R 貨物労組も率回答となったものの、ベア 0.1%を獲得しました。また、聚楽労組は 1,500 円の賃金改善を獲得し、これらの成果は各単組の交渉をはじめ、労連やグループ会社の仲間の交渉にも相乗効果・波及効果をもたらしています。

定期昇給の確保においては、J R 北海道労組や J R 貨物労組が牽引役となり闘争スケジュールを設定し、他の単組が回答を受ける前に団体交渉で「定期昇給の実施」を確認したことが大きな力となりました。

一方、本州 3 社は、ベア実施が困難な理由に「コロナ禍における経営状況の悪化」をあげ、業績を回復しなければ「ベア」を実施しないという姿勢を示しました。そして、「ベア」を実施するためにはさらなる「生産性向上が前提」であるということを鮮明にしてきました。しかし、コロナ禍における経営状況は各社共通であり、そのことが理由にならないことは、「ベア」獲得の結果を見れば明らかです。その意味で、J R 総連に結集する各単組は組合員の生活実感や労働実感をまったく顧みようとしない経営陣に対し、組合員の切実な思いを伝え、労働条件向上のために粘り強く交渉を積み上げてきました。

22 春闘は、昨年の 21 春闘敗北の根拠を掘り下げ、「統一闘争」をいかにつくり出すのかという課題を一致させてたたかってきました。

J R 総連は、機関会議での方針の練り合わせ、戦術の意思統一の場づくり、総決起集会の開催、職場環境改善のたたかい、横のつながりを強化する WEB 会議の開催など、これまでの「J R 総連春闘」のたたかいを再構築して、一糸乱れぬたたかいを実現することで厳しい情勢に立ち向かってきました。その結果が、すべての単組の団結強化につながっていることは言うまでもありません。

その成果は、厳しい情勢でのベア確保、定期昇給の確保、労働条件の改善、労連への波及効果にとどまらず、「組織強化」という労働組合の根幹にかかわる大きな目的を実現することができたたたかいとして教訓化し、組織拡大につなげていかなければなりません。

しかし、今後の課題も明らかになりました。連合春闘の否定的な現実のなかで春闘の灯を守ること、組合員の雇用と生活を守り抜くこと、経労委報告で示されているポストコロナにおける「働き方改革」や労働諸法制の改悪がめざされていることなど、私たち J R 総連・各単組を取り巻く情勢はさらに厳しくなることが予想されます。したがって、組合員の「安全・健康・ゆとり」を第一義に、引き続き連携を強化していくこととします。

労連の仲間やグループ会社の仲間の春闘はこれからも続きます。引き続き、仲間の交渉を見守るとともに、連帯・共闘の精神で最後までたたかい抜きましょう。

最後に、ロシアのウクライナへの軍事侵攻を契機に、国内では「憲法改正」、「敵基地攻撃能力の保有」、「核共有」、「非核三原則の見直し」などの議論を求める声が強まっています。私たち J R 総連は、この 2022 J R 総連春闘で培った組織力をもって、いかなるテロにも戦争にも反対し、憲法 9 条を守り戦争のない平和で安心して暮らせる社会の実現をめざしていくこととします。

夏の参議院議員選挙で J R 総連が推薦・応援する候補者の必勝に向けてともに奮闘しようではありませんか。

2022 年 4 月 15 日
J R 総連執行委員会